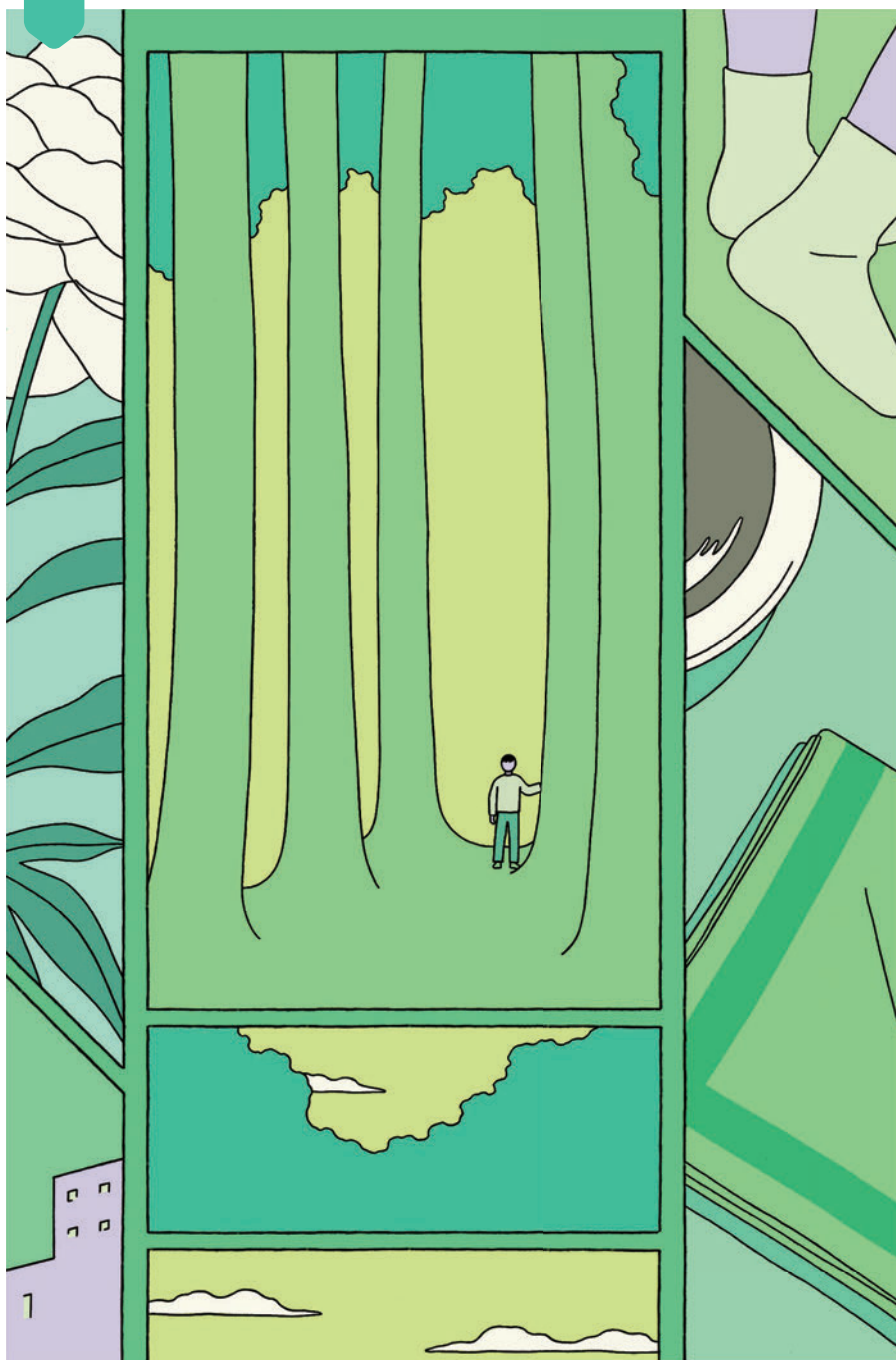


# 国語教育相談室

95

中学校



特集

## 今、「平家物語」が熱い！

■国語道場

古典を、もっと自由に、  
もっと楽しく！

■書写

学習意欲を  
高めるには

■巻頭エッセイ

メッセージのその外側のこと  
古川日出男

光村図書

本誌は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、  
(一社)教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとって配布しております。



# ファイ、フツとぞ

早稲田大学教授  
森山卓郎

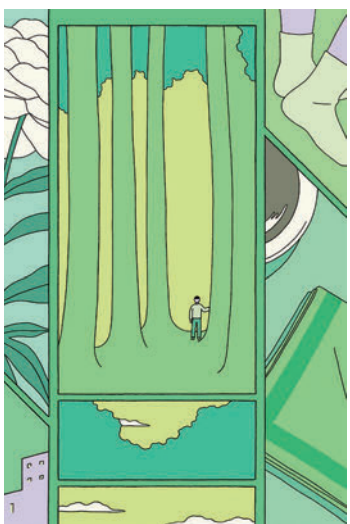
『平家物語』の「那須与一」の表現は印象的だ。「(扇は)しばしは虚空にひらめきけるが、春風に「もみ二もみもまれて、海へさつとぞ散つたりける。夕日のかかやいたるに、みな紅の扇の日出だしたるが、白波の上に漂ひ、浮きぬしづみぬ揺られければ、沖には平家、ふなばたをたたいて感じたり」——リズム感のある言葉にスローモーションのような映像。日を描いた真っ赤な扇は夕暮の空の色を背景にひらひらと春風にもまれて落ち、白波に漂う。舟へは八〇メートル近い(七段ばかりはあるらむ)。目標は波で動く。与一も元々自信があつたわけではない。みんなの前でプレッシャーに負けず、その扇の真ん中を見事に射ぬいた。その後、感に堪えず舞を舞う武者の首まで射る。鎧でも首は急所。強い殺意だ。実は、この前に美人の乗った舟が出てきたところで、「あれはいかに」といぶかしがる義経に「大將軍、矢おもてにすすんで傾城を御覽せば、手たれ

にねらうて射おとせとのばかり事とおぼえ候(大將軍が前に出て美人を御覧になつたら、上手に狙って射落とせという作戦と思います)」と部下が忠告する場面がある。そこから考えれば名手なら一応射程内だったとも言える。その点壇ノ浦の合戦での「阿佐里与一」という別の与一さんはもつとすごい。四五〇メートルくらい先まで射て「四町余をつつと射わたして」、「大舟の舳にたつたる」武將を射倒す話がある(「遠矢」。ちなみに現在の弓道では近代的場が二八メートル、遠的場が六〇メートルだ。もつとも、扇が四五〇メートル先ならもう描写などできない。さて、映像だけでなく音にも注意したい。弓矢で定型的に使われる表現の「よつびいてひやうど放つ」「〜と」が前の音の影響で濁音になっているの「ひやう」。擬音語的だ。この時代の「ひ」は今とは違い「フィ」のような音とされている。「ひやう」は「フ

イアウ」という感じが近いだろうか。いかにも矢が飛んでいく感じた。扇に当たるところは「ひいふつとぞ射切つたる」。「フィ、フツ」という感じだ。なお、後にポルトガル人宣教師がローマ字で記した天草版の平家物語の該当部分では「フィップツ」となっている。続いて、武者を射る描写には「ひやうふつと射」とある。「フィアウ、フツ」という感じだろうか。動詞も含めて微妙な違いがおもしろい。なお、天草版ではここは「フィアウツツと」だ。放つ瞬間の風を切る音、かぶら矢の大きな音、命中音、どよめき……。音の世界も実に豊かだ。盛者必衰の主題やキャラクターの描き方なども読ませるが、平家物語の臨場感あふれる表現の世界も楽しく味わいたい。

『平家物語』の原文は『国語2』(光村図書)と『新編 日本古典文学全集』(小学館)による。『天草版平家物語』は『天草版平家物語対照本文及び総索引』(江口正弘 明治書院)による。

## CONTENTS



表紙イラスト 大津朝乃

02 04

特集

## 今、「平家物語」が熱い！

広がる！ 平家物語

「平家物語」製作委員会に聞いた！「ここが見どころ!!」「平家物語」実践アイデア

登場人物に焦点を当てて名場面集を作る ● 碓氷愛実  
学習者とともに創造する古典の授業 ● 植田恭子

つながる古典！

小学校・中学校・高等学校で学習する主な古典教材 ● 監修／東野泰子

12

● リエコの国語道場 3

古典を、もつと自由に、もつと楽しく！ ● 作・画／あべかよこ 監修／甲斐利恵子

16

● 全力！コージのなるほど書写授業 3

学習意欲を高めるには ● 作／藤井浩治 画／ホリグチイツ

メッセー  
ジ  
のその外側  
のこと

作家 古川日出男

わたしは『平家物語』の現代語訳を二〇一六年に発表した。ところで現代語訳とはいったい何なのだろうか？

これは翻訳の一種なのだと見えるし、実際にわたしも「自分は翻訳をした」という意識を持っている。けれども、である。それでは翻訳とはいったい何なのか？

たとえば、つぎのような文章を機械翻訳にかけると、いろんなことがわかる。

〈そこにミカンがあるぞ〉  
と、

〈そこにミカンがあるよ〉

その外側をつねにつねに「いるのですよ、その人たちが」と意識させるのが、(わたしたちの操る日本語の、その)古語の世界なのだ、と言い直せる。

さて『平家物語』だ。

じつは『平家物語』には諸本がある。巻数も文体も内容も異なっていて、それどころか題名まで変わってしまったものもある。たとえば全四十八巻の『源平盛衰記』だ。題名が変わり、しかも「平家」ならぬ「源氏と平氏」がそこにフィチャーされた異本もまた、しっかりと『平家物語』の一本にカウントされている事実はおもしろい。

しかし内容的に「おもしろい」のは、十四世紀後半に成立した「覚一本」というテキストで、これは、もともとは、盲目の琵琶法師たちのその当時の語りを文字化したものだった。順番から言うとうと、テキスト(本)があつて、それを琵琶法師たちが演奏した——琵琶を弾いて語った——というのではない。その逆である。まず、『平家物語』を演奏する芸能者たちがいて、次いでその語りをテキスト(「覚一本」)に落とし込んだという流れだ。

だ。

インターネット上の翻訳サイト等で試せば、上記の二つの文章を、たとえば英語に訳してもフランス語やイタリア語に訳しても、解答は一種類になると思う。英語であれば「There is a mandarin orange there.」が模範解答になる。あるいは oranges と複数形になって、「There are ...」となるかもしれないけれども。いずれにしても、機械翻訳が情報としてこたわるのは、それが一個のミカンか、二個以上のミカンなのかであつて、そんなことは日本人の私たちは気にしていないのに(そうした場合は多い)、しかしながら英語側は相当に気にする、ということとは起きる。

なぜならば、それが英語の場合、情報としての優先度が高いからだ。

だが、ちょっと立ち止まってほしい。わたしたちは、この二つの文章——〈そこにミカンがあるぞ〉と〈そこにミカンがあるよ〉が併置された際に、たとえば話し手と聞き手がそこにいるとの設定をすつと感じ取って、それが年長者と年少者のペアだったら〈そこ

わたしの現代語訳も、やはり覚一本を底本に選んでいる。

これをどう「翻訳」するか？

わたしは、やはり、機械的に現代語化されるメッセージの外側ということを考えて。

つまり、この覚一本には本来、紙に書かれているその文字に先立って、これを歌ったり語ったりしている者たちがいた。そして常時、琵琶という楽器がともなわれていた。

これぞ真の「語り手」である。

では「聞き手」は？——真の「聞き手」はいったいのか？

もちろん存在した。

その琵琶法師の聴衆たち、だ。

覚一本は全十二巻+別立ての一卷、すなわち計十三巻あつて、わたしは、この物語を現代語訳するということは、その意味内容を忠実に「いま」に甦らせるだけでは足りない、と判断した。それでは翻訳——真の翻訳——にはならない、と決断した。大切なのはシチュエーションなのだ。それをビビッドに、真に迫るように出現させるといふこと

にミカンがあるよ」と言うのはどちら側か、ほとんど瞬時に想定する。十二歳の女の子が、二十七歳の教諭に向かって〈そこにミカンがあるぞ〉とは決して言わないだろう、と、そんなふうに考えるということだ。

同じ日本語の文章が、意味的には「There is a mandarin orange there.」かそれに類する内容しか孕んでいないのに、このメッセージを伝えている「外側」にいる「話し手」と「聞き手」を、ぼんやりとではあつても浮かび上げさせるのだ。

この、外側のシチュエーションを浮上させるという営為こそが、じつは(機械にはできない)真の翻訳なのだ、とわたしは言いたい。

さらに言いたいのだが、古典の文章は、時代をさかのほればさかのぼるほど、そこに主語が明示されないでも「誰が主体となつて行為をしていて、誰がその行為を及ぼされるのか」を伝える。たとえば複雑な敬語システムがやっていることは、それだ。つまり、機械翻訳はメッセージのみを抽出するのに、

なのだ。

わたしは、そういうわけで、拙訳の『平家物語』の語り手に、琵琶を持たせた。

しかも語り手たちを複数にした。

わたしは、『平家物語』が演奏される交響楽的なステージ」をこそ、自分の翻訳の最終の着地点だと見据えたのだった。これを、どうにか現出させられたと思っている。

## 古川日出男

作家。1966年福島県生まれ。1998年、長篇小説『13』(幻冬舎)でデビュー。『アラビアの夜の種族』(角川書店)『LOVE』(祥伝社)『女たち三百人の裏切りの書』(新潮社)といった文学賞受賞作をはじめ『ベルカ、吠えないのか?』(文藝春秋)『曼陀羅華X』(新潮社)など著作多数。ほかに戯曲やノンフィクション、アニメ化された『平家物語』現代語全訳(河出書房新社)なども手がけ、朗読を含めた多様な文学表現に取り組んでいる。公式WEBサイト:「古川日出男のむかしとミライ」<https://furukawahideo.com>



撮影:朝岡英輔



広がる！  
平家物語

テレビ  
アニメ

「平家物語」

「平家物語」製作委員会に聞いた！

ここが見どころ!! 「平家物語」

今、「平家物語」を  
アニメ化した理由

TVアニメ「平家物語」は、古川日出男氏による現代語訳から生まれました。その語りは、平安末期に確かに生きた人々を、現代の我々に地続きの存在として強く結び付けるとともに、数多ある他の古典との違い——各々の時代の琵琶法師たちが聴衆に向けて奏で、語り部の個性とともに引き継がれた口承の物語であることを強く感じさせるものでした。

今を生きる私たちが、その現代語訳から受け取ったのは、これまでイメージしていた軍記・史劇のマスターピースでもなく、滅びの文学でもなく、私たちがこの後も語り継いでいくべき祈りの物語でした。

特集

今、

平家物語

が熱い！

二〇二三年は、「平家物語」に関連するさまざまな作品が発表され、話題になりました。  
今号の特集では、アニメやドラマなど、古典に新風を吹き込む珠玉の作品を取り上げ、国語の授業とのコラボレーションを提案します。

に年号や場所などを説明するテロップは一切入らないのですが、そのぶん、当時そこに生きた人々の感情に想いを巡らせて、この時代の日々を感じてもらえるのではないかと思います。

原典や関連コンテンツと異なる点

アニメオリジナルキャラクターとして、琵琶法師の少女・「びわ」を主人公に据えました。びわは未来が見える不思議な目をもっていて、「平家はいずれ滅びる」という未来を知りながら、平家の人々と共に過ごし、その運命を見守っていきます。あの意味、「平家物語」の結末を知る私たち、現代の視聴者とも近い立ち位置のキャラクターです。歴史に詳しくなくても、びわと一緒に平家の人々を見守るようにご覧いただければと思います。

アニメ「平家物語」の魅力

軍記物のイメージが強い「平家物語」ですが、「叙事詩ではなく、抒情詩として描きたい」という監督の思いもあり、人間関係の変化も年月の移ろいも、細やかな感情や描写の積み重ねによって表現しています。いっぽうで合戦などの動的なシーンは緊迫感のある「琵琶歌」によって表現され、メリハリのある構成となっています。作中

活用の  
ポイント

「平家物語」の猛々しいイメージを覆す、はかなさや切なさをたたえた本作。平家の視点で「諸行無常」の物語を味わうことができます。古川日出男さんの訳といっしょに、生徒に勧めてみてはいかがでしょうか。

「TVアニメ「平家物語」Blu-ray box 好評発売中

ウェブ  
サイト

## 10 min. ボックス 古文・漢文

(NHK for School)



それぞれの授業で視聴することで、作品の背景をつかみ、イメージをもって学習に入ることができます。

番組公式ホームページ URL  
[https://www.nhk.or.jp/school/kokugo/10min\\_kobun/](https://www.nhk.or.jp/school/kokugo/10min_kobun/)



中学校・高校で学習する古典の解説・朗読が、番組名のとおり、十分間の動画にまとめられたシリーズです。「平家物語」はもちろん、「竹取物語」や「おくのほそ道」といった他の作品の解説も、いつでもウェブ上で視聴することができます。



文庫

## 「平家物語」ビギナーズ・クラシックス

(編) 角川書店 KADOKAWA / 角川ソフィア文庫



授業後に、教科書には掲載されていない場面まで読み広げたり、作品全体の大筋をつかんだりすることで、より深い理解につながれます。

「ビギナーズ・クラシックス」は、古典を初めて読む人向けられたシリーズです。主要な部分の原文と現代語訳の他、解説や図版、コラム、あらすじを織り交ぜた手厚い構成になっています。古典に関心をもち始める中学生にもぴったりです。

大河  
ドラマ

## 「鎌倉殿の13人」(NHK)



現在放送中のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」では、平家が滅びる平安時代末期から、源氏が政権を握る鎌倉時代にかけての世界が描き出されています。主人公は北条義時(演・小栗旬 写真上)。源氏の棟梁・源頼朝(演・大泉洋)を支えた人物です。

脚本の三谷幸喜さんが「これが原作のつもり」と話すのは「吾妻鏡」。一一八〇(治承四)年から一二六六(文永三)年までの、鎌倉幕府に關係する出来事が記された歴史書です。架空の語り手が、鎌倉で見聞きした出来事を日記につづったという体裁で編纂されている点が特徴的。「平家物語」と重なる部分もありますが、源氏側の視点から描かれているため、同じ出来事を取り上げていても、違いが多くあります。

教科書でもおなじみの「扇の的」「弓流し」に登場する源義経(演・菅田将暉 写真下)はすでに退場してしまいましたが、平家を滅ぼし、鎌倉幕府を開いた源氏の未来がどのように描かれるのか、「平家物語」では語られることのない今後の展開に注目です。

## 大河ドラマ「鎌倉殿の13人」

作・三谷幸喜 / 主演・小栗旬

NHK総合ほか 毎週日曜 午後八時

※配信サービス「NHKプラス」でリアルタイム、および一週間の見逃し視聴が可能

## 実践

②

教科書

+群読・絵巻物・新聞・「おくのほそ道」との関連

学習者とともに創造する  
古典の授業

前大阪市立昭和中学校教諭

植田恭子



「平家物語」の魅力と価値を、言語活動を通して見だし、古典を学ぶ楽しさを実感できる授業アイデアを提案します。

## ① 音で創り上げる「平家物語」

漢語を多く用いた和漢混交文の「平家物語」は、琵琶法師の語りによって広められました。独特の調子とリズムをどのように表現するのかをグループで考え、オリジナルの台本を作成します。その際、教科書にある二次元コードを読み取って、朗読の参考にさせるとよいでしょう。群読はタブレット端末に録音して、練習することもできます。最後に、群読発表会を開き、相互評価を行います。

作品の特徴を生かして群読することで、古典の世界に親しむことができますし、協力して取り組むことは、協働的な学びにつながります。

## 実践

①

教科書

+講談「扇の的」・「ビギナーズ・クラシックス」

登場人物に焦点を当てて  
名場面集を作る

埼玉大学教育学部附属中学校教諭

碓氷愛実



「古典に親しむ」ことができるように、授業では扱う作品の特徴を生かした学習活動を設定するよう心がけています。「平家物語」の特徴として、人間の情動が生き生きと描かれている点があります。そのため今回は、登場人物に焦点を当てることで、作品に対する考えを深めることを目標にしました。



パソコンで名場面集を作成する様子

ました。あわせて、名場面集を作る活動を設定し、生徒が自ら作品を読み込んだり、登場人物に注目したりできるようにしました。

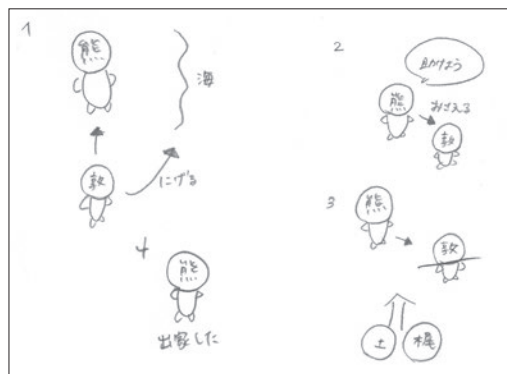
## ● 一時間目

「平家物語」の概要を学んだ後、冒頭部分の暗唱と、「扇の的」原文の音読を行いました。授業の最後には、六代目 神田伯山の講談「扇の的」(YouTube)を鑑賞しました。迫力ある名人芸に触れさせることで、作品に対する興味を高めることができました。

## ● 二～四時間目

「ビギナーズ・クラシックス 平家物語」(KADOKAWA)とワークシートを配付し、名場面集作りを進めます。

なかには、インターネット検索を駆使して史実や他の文献とも比較し、登場人物の人間性に迫ろうとする生徒や、図を描いて場面を整理する生徒の姿もありました。



「敦盛の最期」の場面を整理した図

ある生徒は、「木曾の最期」を名場面に取り上げ、「義仲の討ち死にを知り、戦う意味がないと言って兼平は自害したが、彼の命はいつたい何のためにあったのかと考えてしまう。」と記述していました。

## ● 五時間目

完成した名場面集の交流会を行いました。先述の生徒は、他の生徒から「敦盛の最期」を紹介され、「兼平も武士の生き様をはかなんでいたが、直実も同じである。武士として生きるのにも葛藤があるのだ。」と振り返っていました。

このように、生徒たちは登場人物の言動を読み取り、自分なりに解釈することで、彼らの生き様に共感したり、疑問を抱いたりするなど、古典の世界に浸っていました。

## ③ かわら版「平家物語」

琵琶法師の平曲によって、広く民衆に親しまれた「平家物語」ですが、その当時、新聞というメディアがあったとしたら、どのようなものが発刊されていたでしょうか。グループで協働して作成してはどうでしょう。

トップ記事、インタビュー、社説、コラム、四コマ漫画、広告、源氏・平家双方の声など、記事の内容を考えて配置します。この活動は、多面的、多角的なものの見方を養うことや情報活用能力の育成にもつながります。

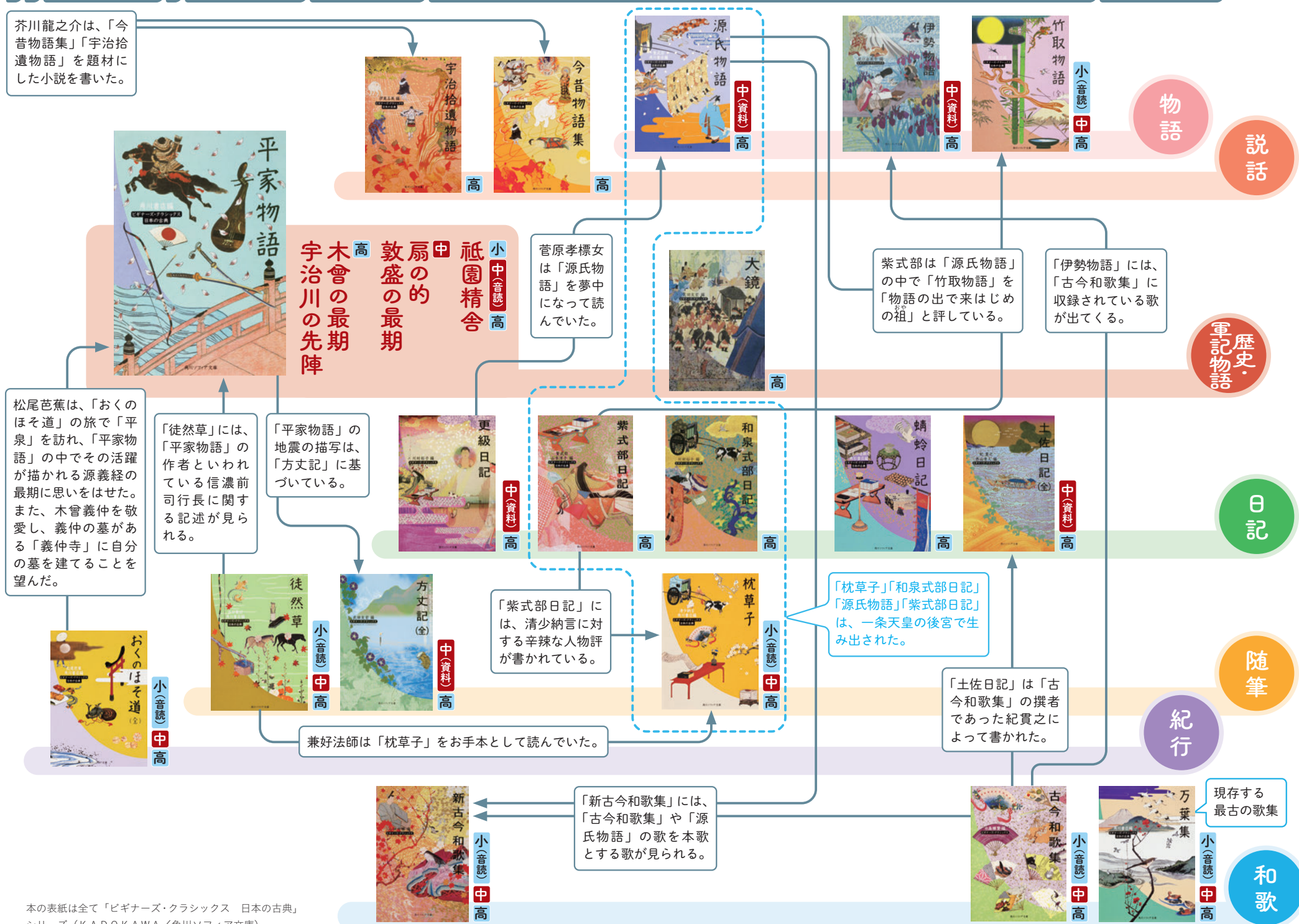
## ④ 松尾芭蕉が詠む「平家物語」

三年生で学習する「おくのほそ道」と関連させた授業になります。「平泉」では源義経を、「小松」では斎藤実盛をしのぶなど、松尾芭蕉が「おくのほそ道」の旅で、「平家物語」ゆかりの地を訪れていることを紹介します。簡単なエピソードと、実際に芭蕉が詠んだ句を伝えるとよいでしょう。

「扇の的」や「敦盛の最期」で、芭蕉はどのような句を作ったかを想像し、五・七・五の十七音で表現します。創作した句を読み合い、合評します。



江戸時代 室町時代 鎌倉時代 平安時代 奈良時代



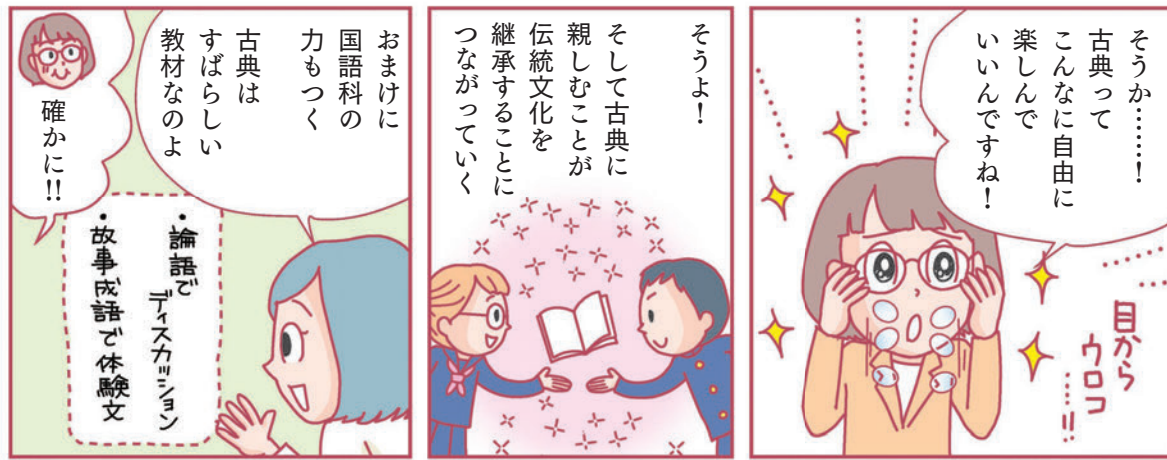
小学校から高等学校までの十二年間で学習する主な古典教材を一覧にしました。  
小学校では、言葉の美しさやリズムを体感できる音読を中心とした教材が位置づけられています。中学校では、文語の決まりや歴史的仮名遣いの基礎を学びながら、古典に親しみます。高等学校では、小・中での学びを基に、さまざまな種類の作品に触れ、古典を味わいます。

【監修】東野泰子 神戸女学院大学非常勤講師

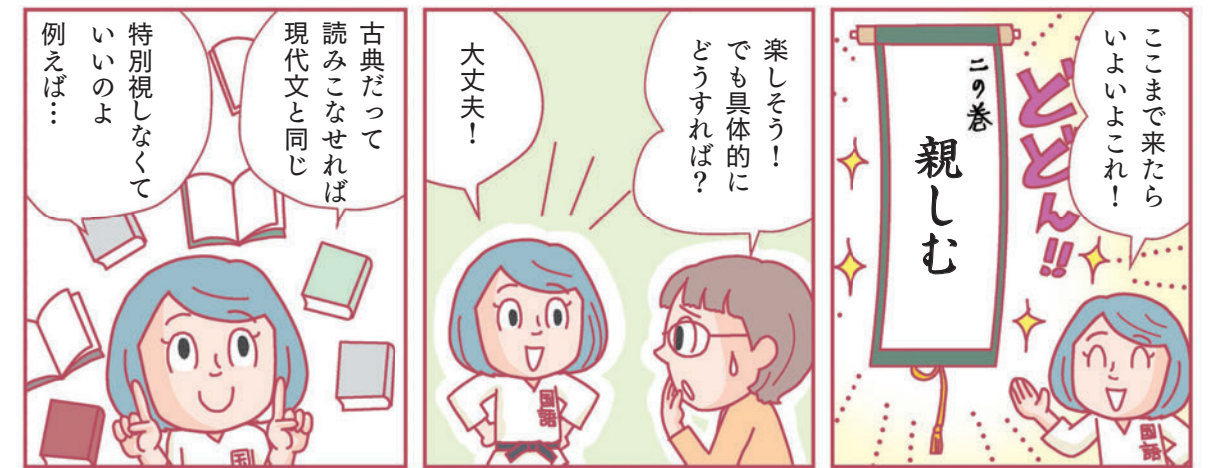
# 小学校・中学校・高等学校で学習する主な古典教材

つながる古典！





「古典は難しい」という思いにとらわれてしまうと、どうしても「わかる」ことを重要視してしまいます。  
「一緒に楽しむ」ことを大事にして、「わかる」のその先へ行きましょう！



# 全カ! コーギーのなるほど書字授業

Vol.3 学習意欲を高めるには

作/藤井浩治 画/ホリグチイツ



意欲アップ  
の極意  
その1

目標に沿って褒めるべし

教科書と比べて、つい多くを指摘してしまいがち。  
学ばせたい要素に絞り、  
できているところを短い言葉で具体的に褒めよう。

ポイント

できるだけ多くの  
生徒に声がけしよう。

ポイント

教科書そっくりに書くことが  
目標ではない!

【目標】

点画の変化を理解して、  
行書で書こう。

次の画を意識して  
終筆を「はね」ている  
うまい!

書写の時間に  
初めて褒めて  
もらった!

大木

意欲アップ  
の極意  
その2

自分で気づかせるべし

教え込むのではなく、  
自分で気づかせると学習意欲が高まる。

① 教科書に書き込む

教科書と自分の文字を見比べて、気づいたことを教科書に書き込ませよう。  
その後、練習を重ね、  
書き込んだことについて  
できたかどうかを振り返らせよう。  
※半紙は片付けるので、教科書に書き込ませるとよい。

② 友達と話し合う

友達と話し合わせ、気づきを増やそう。

ポイント

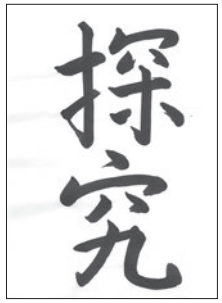
机間指導の際、  
教師ができている子を  
他の生徒に  
聞こえる声で褒めて、  
できていない点に  
気づかせよう。  
(アナウンス効果の活用)



意欲アップ  
の極意  
その3  
「ためし書き」を活用すべし

学年のまとめの活動では、「ためし書き」をして自分の文字の変化を感じさせよう。

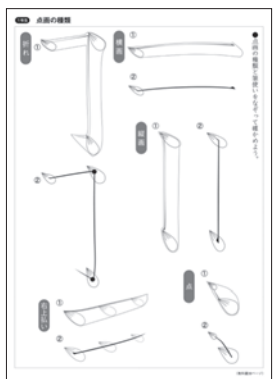
- ①「ためし書き」をさせる  
教科書を見せずに「ためし書き」をさせよう。日常の自分の文字が表出される。
- ②教科書と見比べる  
整えて書くための原理・原則を確認し、自分の課題を発見させよう。
- ③「まとめ書き」をさせる  
授業の終わりに「まとめ書き」をして、「ためし書き」と比べさせよう。目標が達成されているかを確認して、自分の成長を実感させよう。



基礎・基本を反復しよう

漢字は基本点画を組み合わせてできている。学習に入る前に、基本となる点画を復習しよう。

毛筆ワークシート  
(1ページ)



木 木



意欲アップ  
の極意  
その4  
名前を重点的に練習すべし

名前を堂々と書けると見栄えが増す。重点的に練習させよう。

名前を書くことが苦手な生徒が多い。手本作成ソフト「お手本くん」(学習指導書付属DVD)を活用し、名前手本を作成するとよい。



教科書教材と同様の文字で簡単に作成できます。

▶学習指導書付属 DVD

## 令和5年度「言語教育振興財団」研究助成金 一般公募のお知らせ

一般財団法人「言語教育振興財団」では、令和5年度も小・中・高等学校、大学、教育研究団体等を対象として、今日の情報化・国際化・多様化の進展を踏まえ、言語教育（国語教育・外国語教育等）の充実・発展を図るために、理論と実践の分野について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成を行います。

|           |                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 助成内容      | <ul style="list-style-type: none"> <li>①言語教育の内容・方法に関するもの（教育内容・方法部門）</li> <li>②言語教育教材の質的向上に関するもの（教材部門）</li> <li>③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの（教育機器部門）</li> </ul>                                                                                    |
| 研究期間      | 令和5年4月～令和6年3月（原則1年間）                                                                                                                                                                                                                          |
| 応募資格      | 言語教育（国語、英語、日本語、道德等）に関して研究開発を行う小・中・高等学校・大学・教育研究団体（学校の学年・教科単位を含む）、上記に準ずると見なされる団体及び個人                                                                                                                                                            |
| 助成件数及び金額  | 助成件数は60件程度<br>助成金額は1件につき原則として、<br>学校・団体20万～35万円、個人15万～25万円                                                                                                                                                                                    |
| 助成金使途の制限  | 助成金の使途は、研究に直接関係するものに限ります。インフラ整備のための機器・物品購入は対象となりません。研修出張費は、交付額の30%を限度とし、研究に関係ない研修出張費は助成の対象とはなりません。                                                                                                                                            |
| 応募方法・締め切り | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究開発活動についての企画書または実施した実践報告書等の参考書類を添えて、別に定める「助成金交付申請書」を、令和4年12月20日（火）必着で、当財団事務局に郵送してください。</li> <li>・「助成金交付申請書」を希望される方は、返信用切手（120円）を同封のうえ、当財団事務局までお申し込みいただくか、財団ウェブサイトから申請書をダウンロードのうえ送付してください。</li> </ul> |
| 決定・発表・交付  | 令和5年2月に当財団「選考会」にて選考を行い、選考結果は3月末までに文書にて通知します。ただし、選考結果の内容は公表しません。交付は、4月末までに指定された金融機関に振り込みます。                                                                                                                                                    |
| 問い合わせ先    | 一般財団法人言語教育振興財団 事務局<br>〒141-0021 東京都品川区上大崎2-19-9<br>TEL&FAX 03-3493-7340<br>E-mail:gengo-k@star.ocn.ne.jp                                                                                                                                      |

※詳細につきましては、財団のウェブサイト (<https://gengo-k.jp/>) をご覧ください。

日々の雑感、考察、失敗談から、亡くなられたあの方への追悼文まで……  
さまざまな書き手たちが、  
「エッセイ」という枠組みの中で書き記した二〇二二年の記録。  
この年に新聞・雑誌等の媒体に発表された中から選りすぐった、  
珠玉のアンソロジーです。

コロナ禍の中、表現者たちは、いったい何を見つめ、何を考えていたのだろうか。  
この本を読むと二〇二一年の空気が伝わってくる。  
苦しいことだけではない。喜びやユーモアが、洗練された文章で綴られている。  
日本語の美しさも感じとってほしい。

——本書編集委員 林真理子

■編集委員  
角田光代  
林真理子  
藤沢周  
堀江敏幸  
町田康  
三浦しをん



## ベスト・エッセイ 2022

日本文藝家協会編

定価：2,200円(本体2,000円)⑩  
四六判  
ISBN 978-4-8138-0414-7  
発行：光村図書出版

■掲載作家  
青木耕平 青木文平 杉子女王 井上理津子 岩松了 宇佐見りん 内田洋子 海猫沢めろん 大矢鞆音 小川さやか 奥本大三郎 尾崎世界観 尾上松緑 小山田浩子 温又柔 角田光代 加納愛子 川上容子 川本三郎 神林長平 岸田奈美 岸本佐知子 金田一秀穂 倉本聰 黒井千次 小池水音 小泉武夫 小泉凡 齋藤陽道 酒井順子 佐倉統 佐々涼子 沢木耕太郎 榎本野衣 茂山千之丞 柴田一成 志茂田景樹 鈴木聡  
鈴木忠平 瀬尾夏美 高樹のぶ子 高見浩 高村薫 武田砂鉄 田中卓志 田中優子 谷慶子 辻真先 夏井いつき 二宮敦人 林真理子 原田宗典 藤沢周 プレイデイみかこ ほしよりこ 星野博美 堀江敏幸 万城目学 町田康 松浦寿輝 松本猛 マライ・メントライン みうらじゅん 三浦しをん 三浦雅士 村井理子 村田喜代子 本谷有希子 柳田邦男 山本貴光 湯澤規子 横尾忠則 李琴峰 寮美千子 鷺田清一

“学びをワクワクさせるのは  
デジタル教科書だ”



## 光村図書 デジタル教科書 & デジタル教材

商品  
ライン  
ナップ

◆ 令和3年度版中学校教科書準拠

― 指導者用デジタル教科書(教材) [学校フリーライセンス]

国語 1~3年 各79,200円 / 26,400円 (1年間利用)

英語 1~3年 各82,500円 / 27,500円 (1年間利用)

― 学習者用デジタル教科書 [ユーザーライセンス]

道徳 1~3年 各660円

― 学習者用デジタル教科書+教材 [ユーザーライセンス]

国語 1~3年 各1,100円 英語 1~3年 各990円

好評  
発売中

詳しい  
商品情報は  
こちら ▶▶▶



小・中・高等学校教科書 訂正のお知らせ

教科書の訂正箇所をウェブサイトに掲載しております。  
まことに恐れ入りますが、ご確認のうえ、ご指導の際に  
はご留意くださいますようお願い申し上げます。



光村図書  
LINE公式アカウント  
友だち募集中!



中学校 国語教育相談室 95号 2022年9月15日発行

発行人 吉田直樹

発行所 光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9

電話: 03-3493-2111

www.mitsumura-tosho.co.jp

印刷所 株式会社 加藤文明社

デザイン mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」  
にのっとり、適切な管理・保護に努めてまいります。  
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

【教育情報誌に関するお問い合わせ先】

住所変更・配送停止: ej1@mitsumura-tosho.co.jp

ご意見・ご感想: koho@mitsumura-tosho.co.jp



光村図書